

## 平成22年度学校自己評価並びに学校関係者評価

学校名	坂戸市立上谷小学校
実施日	平成23年1月28日

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員の意見
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組む体制を作っている。	A	本校の特色は、地域の教育力を生かした体験活動の推進であり、総合的な学習や生活科等を中心に取り組んでいる。具体的には1年晋遊び、2年サツマイモ栽培、3年野菜づくり、安全マップづくり、4年地域の文化財、6年生作り、国際理解、6年生製作甲等で地域の方々と触れ合い、生き生きとした体験活動を展開している。本年度は、学校応援団長を中心とした学校応援団体制が確立し連携を取り合っており取り組んでいる。予算についても、アルミ缶回収や資源回収の充実により確保できるようになった。【改善点】 ・地域連携年間活動計画を作成する。(3学期中に作成、来年度実施) ・特色ある学校作りの予算計画を作成し、計画的に予算を執行する。(本年度の状況を踏まえて)	A	・体験活動については、計画的に各学年で取り組まれていて良いと思う。 ・「野菜作り」など、それぞれの学年で、単年度で終わってしまっているのが、複数年、継続的に取り組めると良いと思う。そのことにより、子どもたちが、昨年度の経験を生かし、工夫・改善して体験活動に取り組むことができる。 ・地域連携活動計画を立てる上で、合わせて予算計画も立てられると良い。
	2	学校は、計画・実行・評価・改善のサイクルのもと、分掌経営を進めている。	B	学校教育目標具現化のための校務分掌組織は教科・領域部会により年度当初の計画・実行・評価を行っている。しかし、近年、職員の変動が多く、計画・実行・評価が形式的に行われ、教科・領域等の取組で教育を刷新していくとする動きが見られないのも事実である。【改善点】 ・各教科・領域等の主任によるリーダーシップの発揮(来年度) ・各教科・領域等における目に見える改善の実施(来年度)	B	・学校だけでなく各種の便りを通して、学校の取り組みの様子が分かる。更に、学校公開の機会が多くなると、更によくなると思う。
	3	学校は、自己指導力の育成を目指して組織的に生徒指導に取り組んでいる。	A	本校では毎月の生活目標の取組により、積極的な生徒指導を推進している。また毎月一回の生徒指導会議では全職員が一堂に集し、子どもの生活の様子について話し合い、共通理解・共通行動に努めている。いじめ問題に関しては、なかよしアンケートを実施し、早期発見、早期対応に心がけている。【改善点】 ・児童の自己指導力を高める教師の研修を実施する。(生徒指導、教育相談部) ・「学校のきまり」を共通理解し、同一歩調で推進していく。	A	・あいさつについては、学校生活においては良くできているようだが、学校外では、十分といえない状況にある。校外でもあいさつができるように、学校・家庭・地域が連携して取り組んでいく必要がある。 ・先生によって、指導内容(話)が違っている場合がある。同一歩調でやっていただけると良い。
	4	学校は、事故やトラブルに對して、組織的に迅速に対応できる体制を整えている。	A	本校では児童の問題行動に對し、組織的に且つ機動的に対応してきた。不登校問題ではケース会議を行うと共に、関係機関との連携を図り、組織的に対応することができた。【改善点】 ・不登校等の問題行動の経過の把握と、職員間の連携が必要。状況が改善しない場合の更なる対策・方針の更新を行う。 ・教職員の入れ替わりが激しい中で、毎年、対応の仕方を共通理解し、共通行動できるようにしている。	A	・不登校問題など、関係機関と連携しながら対応を図っていることはよいと思う。 ・学校内の問題を解決していくために、児童自身が自分たちで解決するための話し合いができるとうと良いと思う。
教育課程・学習	5	学校は学校教育目標の具現化を目指し、教育課程を編成・実施・評価し、教育活動の充実改善を図っている。	B	本校の学校教育目標「学びいっぱい、やさしいいっぱい、元気いっぱい」を常に念頭に置き、教育活動を実施した。各行事では必ず、反省や来年度の方策を話し合った。今年度の例では持久走大会、硬筆・書き初め展で今まで出さなかった賞状を本年度より出している。【改善点】 ・教職員の自己申告の取り組みを、学校教育目標に連動させ、組織全体で取り組み、評価・反省を次年度に生かす。 ・学校評価を計画的[前期・後期]に行い、評価が低い項目については、改善策を出し合い、改善につなげていく。	A	・学校教育目標の具現化のために、教育活動を工夫しながら取り組んでいる。 ・賞状については、子どもたちは喜んでいて、励みになっているので、良かったと思う。
	6	学校はそれぞれの学年で「読む」「書く」「計算」の達成目標を踏まえて、指導や取り組みを工夫している。	A	各学年では児童に毎日漢字・計算の宿題を与えたり、朝自習で算数検定(基礎基本問題)を行なっている。また、術選で算数検定の補習を行い、学力不振児の対応を行っている。さらに埼玉県教育に関する3つの達成目標の過去の検証問題に繰り返し取り組み、定着していない児童には個別で指導を行っている。【改善点】 ・算数検定の更なる充実を目指し、検証・改善をしていく。	A	・3つの達成目標など、確実に基本的なことの理解が伸びているのはよい。家庭ではなかなか繰り返しやるという事はさせられないので、学校の取り組みはありがたい。
	7	学校は、学力向上を目指し、児童生徒の実態に基づいて指導体制や授業改善に努めている。	B	上谷小の全国学力学習状況調査等の確認テスト結果を見ると、文章を読み取る力が不十分である。そこで今年度は読解力を身につけさせることをテーマとし、国語科の授業改善に取り組んだ。全教員が研究授業を行い、指導力が向上し、学力の向上につながっている。また、読書タイム・音読朝会を立ち上げたり、国語辞典を3年生以上全員に持たせ、活用させている。【改善点】 ・少人数指導やティームティーチングの効果を検証し、よりよいあり方を探っていく。	A	・国語の学力を向上させるために、毎日の音読や読書タイム・国語タイムを取り入れてくたださっているのは、とてもよいと思う。
教育課程・学習	8	学校は豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	補充・深化・発展を図る道徳の時間を中心にして全教育活動の中で豊かな心を育てている。また、体験活動を重視し、道徳的実践力を育てようとしている。【改善点】 ・道徳主任を中心に、「心のノート」「影の國の道徳」等を取り入れた年間指導計画の作成を行う。 ・道徳的実践を重視し、道徳的な行動や言動を生活の中でできるようにする。そのために、特別活動などの体験的な活動のわらわ明確にし、取り組む。	B	・ろう学校や他の障害者施設との交流を持たせることも大切であるように思う。 ・現在、3年生が花植えボランティアを行っているが、更にボランティア活動を広げていくと良い。 ・道徳等を通して豊かな心を育む取り組みを行っているようだが、体験活動を増やしていくと良い。
	9	学校は、「規律ある態度」の達成目標を踏まえて、指導や取組を工夫している。	A	「規律ある態度」は8項目「時刻を守る」「整理整頓」「あいさつ」「言葉遣い」「学習のきまり」「生活のきまり」で構成されているが、本校はこれらの項目を生活目標に位置づけたときに「あいさつ」を年間の生活目標として常に児童に指導を行っている。また、平成17年度より学校全体で「くつそろえ」に取り組んでおり、児童の意識も高い。【改善点】 ・児童の朝のあいさつの声がかかり出るよう指導する。(生徒指導部) ・「規律ある態度」について、家庭と連携して取り組むような体制を作る。(生徒指導部)	A	・「規律ある態度」は、学校だけの取り組みで身に付くものではなく、家庭でのしつけが大切であると思うので、学校・家庭が連携して取り組んでいくことが大切である。

教育課程・学習	10	学校は、児童生徒一人一人を大切にされた学校経営を行っている。	A	日頃から児童一人一人に目を配り、学習指導、生徒指導を行っている。また、不登校気味の児童に対しても担任はもとより全職員が対応して学校へ登校できるような取組を行っている。また、通知表の所見や作品についても良いところを伸ばす視点で取り組むよう共通理解がなされている。 [改善点] ・教育相談日の充実(定例日の計画的活用を教育相談主任が4月に提案)	A	・毎年5月の連休明けからある家庭訪問は、時期が早くて話すことが少ないので、もう少し遅らせて行ってくれると良い。
	11	学校は、「健康・体力」の目標達成を踏まえて、指導や取組を工夫している。	B	体育主任のリーダーシップにより、「種く洋」をテーマに校内の体育指導の充実が図られている。具体的には、授業の充実と共に、本校の特色でもある目覚め体操、上谷ピクス、逆上り教室、縄跳び教室等豊富な取組が実践されている。 [改善点] ・食育に関する指導の充実(4年生以下) ・体力向上推進委員会・学校保健委員会の年2回(課題・成果検討)の実施(本年度)	A	・学校で取り組みを工夫してくれているので、体力が向上しているのを感じる。 ・逆上がりができない子に対して、熱心に指導して下さっていてありがたい。
	12	学校は、ノーマライゼーションの考えを踏まえて、特別支援教育の充実を図っている。	B	本校の特別支援学級では児童一人一人の個別の指導計画を作成・実施し、確実に児童に力がついできている。また、実技教科を中心に進級学級と特別支援学級との交流が毎日行われている。本年度は、学校支援員を特別支援学級に配属し、よりきめ細い指導を行うと共に、多くの教職員が、授業に入り、担任と連携し、教育活動に当たっている。 [改善点] ・普通学級に在籍する支援を要する児童についても、全教職員で把握し、一人一人に応じた支援を進めていく。	A	・ノーマライゼーションの考えを踏まえた標準簿での取り組みはよいと思う。更に、学校外の障害者施設との交流をもう少し充実させた方がよいと思う。
資質の向上	13	学校は教職員の服務規律の確保に努めている。	A	毎月、倫理確立委員会を確実に実施し、職員会議の中で、倫理確立に関する内容について報告する時間を位置づけている。また、埼玉県教育委員会会長声明の「不祥事防止の行動指針」の徹底を図り、特に、報告・連絡・相談を徹底し、相互の声かけに努めている。 [改善点] ・倫理確立委員会の年間研修計画を作成し交通事故・情報管理・セクハラ等テーマを設定し研修する。 ・服務規律確保のための若年教職員への計画的指導。(若年教職員の増加)	A	・新聞やテレビなどで教職員の不祥事を目にする事が多い。学校や先生方の信頼がなくなってしまうので、是非、今の取り組みを続けていただきたい。
	14	学校は教職員の指導力向上に計画的・組織的に取組んでいる。	A	教職員が自身の指導力向上のために自己評価シートに目標を設定し取り組むことにより指導力の改善を図っている。さらに教職員が組織的に行う校内研修では、面談科に集点を当て、「確かな読み力」を高める指導法の研究をテーマとして、すべての学年で授業研究を行い、指導力を高めることができた。その他、各種研究団体の研修会に、すべての教員が参加し、指導力を高めている。 [改善点] ・出張等での研修成果を全職員に広めたり、資料を共有化できると良い。	A	・子どもたちに国語の力を付けるために、すべての先生が授業研究をやって指導力の向上を図っているということが分かった。これからも続けていただきたい。 ・資料のデータ化は、やっていると思うが、更に充実させると、指導力の向上にプラスになると思う。
学習環境	15	学校は、環境美化に努め、温かさと涼みのある学ふ環境づくりを組織的に進めている。	B	清掃をキャリア教育の一環にも位置づけ、清掃時間には全職員が清掃指導を行い、特に、児童には、無駄話をしない、取り組むことや清掃時間いっしょまで掃除することを徹底している。また、清掃員点検等も学期制に確実に実施している。また、クリーンタイムでは、保護者の援助も頂きながら、全児童が除草作業や落ち葉集めに取り組んでいる。 [改善点] ・黙って清掃に取り組むことは、不十分であるので徹底させる。 ・掲示担当を中心に全教職員で掲示物を更新し、美的にも内容的にも高い掲示を心がけ、児童の心の安定や学習意欲の向上を図る。 ・年間緑化、栽培計画を作成し、学校花壇が1年を通じて活用されるようにする。	B	・以前は、ウサギの飼育を行っていて、子どもたちにとって色々な面が良かったと思うが、今は、飼育していない状態が続いている。生き物を飼う計画を立てていただきたい。
	16	学校は安全で機能的な教育環境づくりを進めている。	B	毎月10日が安全点検日となっており、点検項目毎に全教職員で危険箇所をチェックを行っている。また、修繕が必要となる場合は教職員や業者が速やかに修理を行っている。また、夏季休業日には毎年備品等の整備や教材室の整理、整頓を行っている。 [改善点] ・校舎や遊具等が老朽化してきているので、市や父親委員会の力を借りて修理、廃棄等を行う。 ・来年度は、校舎耐震工事が実施されるので、児童・教職員の事故がないよう最善の注意を払う。	A	・資源回収の時に行われている父親委員会の作業は、内容が早めに分かっていると、道具等が揃えられ、当日能率的に作業ができる。
	17	学校は、教材・備品を充実・整備し、学習環境の充実を図っている。	B	教科等主任のリーダーシップにより、普段から教材備品の確認を行うと共に、夏季休業中には、全教職員で備品整理を行い、古くなった物や使えなくなった物等を処分し、日々活用できる教材室づくりに取り組んでいる。 [改善点] ・音楽会での太鼓や暑さ対策のテントなど地域や近隣校に借用して進めているが、徐々に揃えていく。	A	・児童個人所有の楽器など、買わずとも回して使えるシステムを取り入れられないか。特に、ピアノのリサイクルが可能かどうか検討していただきたい。
家庭・地域との連携	18	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。	B	学校だよりの内容や学校だよりを保護者・地域に広く配布することにより、学校の教育活動について理解をしていただくようになっている。また、ホームページの更新を頻繁に行い、常に新しい情報を発信している。 [改善点] ・学校だよりのホームページについて、保護者や地域の方のご意見を生かし、内容を改善していく。	B	・ホームページの更新が頻繁にされていて、とても良い。内容を工夫すると、閲覧する人にとって興味の出合いが違う。アクセスする人が、見たくなるような内容をお願いしたい。
	19	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用している。	A	現在、学校では約200人程度の地域等のボランティア(学校応援団)に協力いただいでいて、学習支援・安心安全・環境整備の各分野において、成果が上がっている。本年度は、図書ボランティアやクリーンタイムボランティアを立ち上げることができた。 [改善点] ・ボランティア感謝の会を充実させ、お世話になった人に感謝する気持ちを育てる。(3月)	A	・同じ人が、色々なボランティアをやっているようだ。更に多くの人が関わられたらよいと思う。
	20	学校は、家庭・地域社会と連携協力し、子どもの問題解決を図っている。	B	地域の防犯ボランティアやPTAの意校指導、夕焼けハトロール等、地域の様々な方の協力により、児童の安全が確保されている。また、民生委員との情報交換会、東部4校地区会議・青少年健全育成地区会議等においての情報交換等を通して連携を図っている。 [改善点] ・地域の方々にも頼るだけでなく、児童の学校外での情報を共有し、生徒指導上の問題の早期発見・早期解決を図る。	B	・上谷小は、防犯ボランティアさんやPTAなど、たくさんの方が子どもたちの安全のために関わってくださっていてありがたい。 ・児童センターの方へも、防犯ボランティアさんに行っていたことはできないか。